

令和3年2月24日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）デジタル化に対応した産業教育の推進について

国の令和2年度第3次補正予算を活用し、県立の専門高校等において、デジタル化に対応した産業教育設備の整備を行うため、27億円の補正予算が追加提案された。

せっかく、思い切った予算を投入するのであれば、この度の整備により、専門高校等の教育内容が格段にブラッシュアップされることを期待しているが、どのように取り組むのか、また、各校の特色づくりが一層進むことも期待しているが、新たに整備する設備は学校のニーズに基づくものとなっているのか、また、設備を使用する指導者の育成はどうなっているのか、併せて教育長に伺う。

また、特に地域のものづくり産業を支えていくためには、工業科へ進む生徒の確保も課題と考える。

昨年2月定例会の産業界が求めるものづくり人材に係る私の質問で、工業科に進む生徒の減少要因の分析と、入学希望者の増加に努めるとの答弁があったが、その後の取組について、併せて教育長に伺う。

（答）

この度の補正予算は、Society 5.0時代における産業を支える職業人を育成するため、国庫補助等を活用して、県立の専門高校等においてデジタル化に対応した産業教育設備を整備するものでございます。

この産業教育設備につきましては、令和4年度の入学生から実施予定の新高等学校学習指導要領に対応して、教育目標や育成すべき生徒像、身に付けさせたい資質・能力等を踏まえた各学校の要望に基づき、整備を行うこととしております。

各学校におきましては、これらの整備を行うとともに、地域の産業動向を踏まえたカリキュラムを編成し、生徒に対して、卒業後の産業現場で必要な専門的な知識・技術や、「課題発見・解決力」等の資質・能力を身に付けさせることとしております。

工業高校における設備の整備に当たりましては、未来の産業の担い手を育成する観点に立った検討を行うとともに、この度整備するデジタル化した最先端の機器と、これまで使用してきた手動で操作する機器の両者について学

ぶことにより、匠の持つ技能の伝承はもとより、ものづくりの原理に関する知識や、デジタル社会に必要な創造力等を身に付けさせる工業教育を推進してまいります。

設備を使用する指導者の育成につきましては、先端技術を有する企業や大学、研究所等の専門家を招聘し、指導・助言をいただく研修会等を開催するとともに、培ったノウハウ等を教員間で共有できるネットワークの構築等に取り組んでまいりたいと考えております。

また、工業科への入学希望者の減少につきましては、中学校長へのヒアリング等から、志願者が男子中学生に偏る傾向があり、女子中学生に対しても工業高校の魅力を伝えることが必要であると捉えております。

今後は更に、ものづくりへの興味・関心が高まるよう、地域や産業界等と連携しながら、新たに開発しているカリキュラムや、新たな設備の効果的な活用、教員の資質の向上を図ることにより、工業高校の魅力づくりを進めるとともに、広く県民に発信し、工業科への入学希望者の増加に努めてまいります。